様式3

学 校 番 号

73

# 令和 4 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立ありあけ新世高等学校（全日制課程）

## 自己評価

### 学 校 運 営 計 画（4月）

| 学校運営方針 | 校訓 「自律・自彊・飛躍」<br>校是 「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」<br>　学校ビジョン及び生徒行動指針を具現化することによって、「確かな学力、健やかな体、豊かな心をもち、社会の変化に柔軟に対応できる生徒」「主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力などを身に付けた生徒」を育成し、地域から愛され、信頼され、誇りとされる日本一の総合学科高校をつくる。 |
|---|---|

| 昨年度の成果と課題 | 年 度 重 点 目 標 | 具 体 的 目 標 |
|---|---|---|
| 【成果】<br>1 コロナ渦であっても、集団演技のまとめや文化祭、総合学科発表会など形態を変更して実施し、生徒の成長につながった。<br>2 体験を通して学ぶ機会は減ったものの、部活動を始め生徒が主体的に取り組む活動は継続できた。<br>3 ICT機器やポータルサイト等の利用を推進し、業務改善が進んだ。<br><br>【課題】<br>1 観点別評価の確実な運用・実施及びICT機器の効果的な活用による授業改善<br>2 第1希望進路実現に向け、3年間を見通したキャリア教育のさらなる推進<br>3 生徒募集と広報活動の戦略的展開 | 1 社会的・職業的自立に向けた能力と態度を育成するキャリア教育を充実させる | (1)「産社・総探」の指導内容の共通理解を図り、1年次での課題発見、2年次での課題研究、3年次での進路実現という、3年間を通した系統的なキャリア教育を推進する。<br>(2)ねらいを明確化しプロセスや振り返りも重んじる体験的活動を通して、よりよい社会・未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む。読書や講話や体験活動を通じて生徒の「心を磨き」、生徒が自らのキャリアを見通す能力を育成する。<br>(3)総合学科高校としての特色あるすべての教育活動を相互に作用させつつ、生徒同士の協働的学び合いの場を設定する生徒のICT活用力、国際的思考力を養う。産社・総探」の指導内容の共通理解を図り、1年次での課題発見、2年次での課題研究、3年次での進路実現という、3年間を通した系統的なキャリア教育を推進する。 |
| | 2 新学習指導要領を踏まえ、指導と評価を一体化させた「工夫」した授業、「感動」を与える行事の充実を図る。 | (1)「ICTならでは」の学習方法を取り入れ、生徒の学習意欲を高める主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法を工夫し実践し、家庭学習習慣の定着を図る。<br>(2)担任・年次・分掌間の連携を強化し、生徒に主体的に行事に取り組ませることで達成感、満足感を高める。<br>(3)個に応じたきめ細かな指導により生徒の可能性を伸ばし、個々の進路希望を実現させる。また、資格取得や語学力向上を促すことで、本校の特色を活かした多様な受験形態に挑戦させ、進路保障につなげる。 |
| | 3 規範意識に富み、チャレンジ精神にあふれた活気ある生徒を育成する | (1)年間で取り組む具体的目標を定めさせることにより、チャレンジ精神の啓発を図る。<br>(2)生徒への積極的声かけによりそれぞれの良い面を伸ばすとともに、教育相談体制を充実させ、鍛ほめ福岡メソッドを実践することで生徒の自尊感情を育成する。<br>(3)他を思いやる心やマナーの向上を図り、自然災害や感染症に負けることなく、笑顔で活力ある生活を送らせる。 |
| | 4 職員間及び職員と生徒との信頼関係の構築による組織的な教育活動を実践する | (1)ボランティアをはじめ、地域との交流活動や体験的学習を積極的に推進する。<br>(2)地域人材による講演会等を計画的に実施して学びの場を広げ、課題の発見、解決に向かう力を養う。<br>(3)生徒会の委員会活動を活性化し、生徒の自治能力を高める。 |
| | 5 地域から学び、地域を支え、地域とともに成長する生徒を育成する | (1)職員自身が自ら学び続ける意識と情熱をもち、同僚性を発揮して教育力や組織力の向上を図り、社会の変化や教育改革の波に対応できる職員集団を目指す。<br>(2)危機管理意識を常にもち、組織的な対応による安全・安心な学校づくりと望ましい信頼関係の構築に努める。<br>(3)新しい生活スタイルの中で、オンラインによる国内外との積極的連携を図る。 |
| | 6 総合学科高校の特長の発信及び小・中学校、地域社会との連携強化を図る | (1)総合学科の特長や学校行事、部活動等を広報し、ホームページの更新を迅速、積極的に行う。<br>(2)新世スマイルプロジェクトを推進し進化させ、マスコットキャラクターを効果的に活用する。<br>(3)創立20周年事業を通して、生徒に活躍の場を提供し、愛校心を高める |

評 価（総 合）：A

| 評価項目 | 具体的目標 | 具 体 的 方 策 | 評価（3月） | | | 次年度の主な課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教務課 | 新学習指導要領に基づいた新カリキュラムについて、全職員の共通理解を図る。 | 新カリキュラムの内容・趣旨・変更点を確認し、効果的な指導法や新たな方策について各教科で検討する。 | A | A | A | ○令和６年度入学生に対する学校設定科目の検討を進める。<br><br>○研究授業や研修を通して、「主体的・対話的な深い学び」につながる授業作りや１人１台端末の活用法を検討していく。<br><br>○目標の皆勤率及び家庭学習時間に届かなかった。学習時間調査やスタディーサポートの結果を効果的に活用し成績向上や資格取得につなげる。<br><br>○進路指導課と連携し進学強化クラスに対する学習指導体制の充実を図る。 |
| | | グランドデザインについて検討し、職員研修会や分掌会、年次会等で重点目標等の共通理解を図る。 | A | | | |
| | | 学校設定科目を再検討し、生徒が主体的に学ぶことができる学校設定科目を新設・再編する。 | B | | | |
| | 主体的・対話的で深い学びに基づく、確かな学力をつけDeep learningを定着させる。 | 全ての職員でICT等を活用した授業研究を推進し、研究授業を1人1回行う。 | A | A | | |
| | | 目標準拠型評価の効果的活用方法を研究し、授業の工夫により生徒の主体的・対話的な深い学びの工夫を進める。 | A | | | |
| | | 生徒が主体的・対話的な深い学びを実感できる学力の評価ついての研修会を2回以上行う。 | B | | | |
| | 個々の生徒の実態を把握し、能力・適性に応じた指導実践を行う。 | 進学強化委員会を年3回実施し、指導内容や指導方法について協議を行い、本校の生徒の実態に合った指導のあり方を検討する。 | B | B | | |
| | | 規則正しい生活習慣を確立させ、皆勤率50%・家庭学習時間（年次＋2時間）を目指す。 | B | | | |
| | | 生徒の進路希望に関する情報を精査・分析し、ガイダンス等で効果的な二者面談を行い生徒の意欲向上を図る。 | A | | | |
| 企画研修課 | 教育活動のスムーズな運営を行うため各分掌との連絡調整を行う。 | 行事等における時制について、関係分掌との連携を図る。 | A | A | A | ○今後も関係分掌及び定時制と連携を図り、円滑な運営を心がける。創立20周年の成果を次年度以降の教育活動につなげる。<br><br>○PTA及び同窓会との連携を深め、本校教育活動の更なる充実を図る。<br><br>○次年度も外部研修会への案内をこまめに実施し、年度末に学校誌に研修の成果をまとめる。<br><br>○教務課と連携して、研究授業と授業アンケートを連動させて授業改善に取り組む。 |
| | | 卒業式に関しては、定時制との連絡調整を図る。 | A | | | |
| | | PTA行事のスケジュール管理およびPTA委員との連絡調整を徹底する。 | A | | | |
| | 充実した校内研修会を実施し、人権を尊重した学校づくりを推進する。 | 各分掌・委員会と連携し、本校の課題に沿った校内研修会を実施する。 | A | A | | |
| | | 3年間を見通した人権・同和教育（特設授業等）を目指す。 | A | | | |
| | | 各種研修会への積極的な参加を推進し、参加した研修会の報告を行うことでその還元を推進する。 | B | | | |
| | 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりの推進と朝の読書を推進する。 | Googleを活用した授業アンケートを年2回実施した結果を検証し、授業改善につなげる。 | B | B | | |
| | | 研究授業（9月～1月）を実施し、授業改善につなげる。 | B | | | |
| | | 読書によって幅広い教養を身につけられるように学校指定図書を活用し、朝の読書を推進する。 | A | | | |

## 学校関係者評価

| 評 価（総 合） | 自己評価は<br><br>A ： 適切である<br>B ： 概ね適切である<br>C ： やや適切である<br>D ： 不適切である |
|---|---|
| A | |

| 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|
| A | ・授業見学の折、競技ディベートのような活動が行われていたが、指導も大変であり、驚かされた。評価シート等も準備しており、今後も続けていくとよい。<br><br>・ICTの活用、思考を促す授業づくりは中高で連携して進めていく方策を検討することも必要である。 |
| A | ・創立時より確かな歩みを感じる。今後の実績を期待したい。<br><br>・生徒・職員・保護者がそれぞれ創立二十周年という意識を高めることで、学校生活全般に良い影響を及ぼすことを期待している。<br><br>・人権・同和教育については、義務教育段階との接続を図ってもらいたい。 |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価（3月） | | | 次年度の主な課題 | 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生徒指導課 | 自ら目標を立て、何事にも前向きに取り組む生徒を育成する。 | 「新世チャレンジ」を活用し、年度当初に設定した目標を達成するための努力をさせる。 | A | A | A | ○ボランティアは、１次生を中心に積極的な参加が見られた。しかし、生徒自らが企画する機会が少なかった。次年度は、ボランティア委員会を中心に、企画を考えさせる。<br><br>○学校行事についてはコロナ禍前の状況に近い形で実施することができた。地域イベントへの参加がまだ十分ではない。<br><br>○「いじめ」への対応は、組織的かつ迅速に行うことを常とし、いじめ防止対策委員会の機能を充実させる。危機管理についても、マニュアル等の見直しを適宜行う。 | A | ・礼儀正しく、挨拶がしっかりできており、指導に感心する。外で会っても気持ちの良い挨拶をしてくれる。生徒に寄り添った指導の継続をお願いする。<br><br>・ボランティア活動については、地域だけでなく、生徒自身の人間性の成長にもつながり、とても意義のあることだと思う。経験をその後どう生かすかを意識した指導をお願いする。<br><br>・校外イベントでのマスコットの活用を実現して欲しい。 |
| | | 生徒全員が年間5回以上のボランティア活動に参加することで、地域と関わりをもつ。 | A | | | | | |
| | | 生徒企画のボランティア活動を推奨し、3割以上の生徒に企画立案、実行させる。 | B | | | | | |
| | 生徒会活動及び部活動、学校行事の活性化を図り、愛校心を育む。 | 部活動紹介や体験入部の内容充実を図り、加入率80%、定着率70%以上を目指す。 | A | A | | | | |
| | | 生徒会を中心に20周年記念行事を盛り上げ、各行事の満足度90%以上を達成する。 | A | | | | | |
| | | 校外のイベント等でマスコットを活用し、地域にも広く周知することで、愛着をもたせる。 | B | | | | | |
| | 安心・安全な学校を目指し、規範意識の醸成と危機管理の徹底を図る。 | 規範意識学習において、外部講師を活用した講演会等を年間5回以上実施する。 | A | B | | | | |
| | | 「学校いじめ防止基本方針」を全職員で共有し、生徒とのコミュニケーションを充実させ、いじめの未然防止・早期解決に努める。 | B | | | | | |
| | | 防災避難訓練前後に「危機管理マニュアル」を確認することで、職員生徒の意識の向上を図る。 | B | | | | | |
| 保健環境課 | 自他に対する健康観への意識を高め、自ら健康管理ができる生徒を育成する。 | 専門家による、健康に関する講演会を年2回実施する。 | A | A | A | ○保健委員会は活動の主体が2年次に代わったので、新たな研究を行わせる。講演会はオンラインでの実施が定着した。<br><br>○教育相談委員会を定期的に開催し、生徒情報を共有し、個別の対応について組織的に検討できた。今後も組織的対応を継続していく。<br><br>○清掃だけでなく、リサイクル倉庫の整理、プラゴミの選別など環境整備も行いたい。また、美化委員会の取組を対外的に発表できるようにしたい。 | A | ・環境問題をテーマとして取り組んでおり、プラゴミの回収を成果指標として具体的に示していることが素晴らしい。<br><br>・コロナ禍の中でマスクを着けて学校生活を送ってきた生徒たちの中には、マスクを外すことに抵抗を感じる者もいるので、心のケアをお願いしたい。 |
| | | 保健委員会を活性化させる。(委員会を毎月1回開催、保健便りを年10回発行) | A | | | | | |
| | | 毎朝の検温をオンライン化することで、自らの健康管理を行わせるようにする。 | B | | | | | |
| | 「産業社会と人間・総合的な探究の時間」の指導内容を充実させ、3年間を通して系統的指導を計画し実施し、総合学科発表会の成功につなげる。 | 教育相談委員会を毎月開催し、情報の収集と分析を行い問題に対し早期の対応を行う。 | A | A | | | | |
| | | 情報収集のツールとして、ICTの活用を模索する。 | B | | | | | |
| | | SC、訪問相談員等の専門家や関係諸機関との連携を強化して対応する。 | A | | | | | |
| | 環境問題や美化活動に関する知識・理解を深め、主体的に活動できる生徒を育成する。 | 環境委員会を中心に、環境問題をテーマにした取り組みを一つ企画して実施する。 | B | B | | | | |
| | | プラゴミを90パーセント以上分別回収する。 | B | | | | | |
| | | 美化活動で、モラルやマナーの育成を図るとともに、「環境美化便り」を年2回発行する。 | A | | | | | |
| 進路指導課 | 生徒一人ひとりの進路に応じた指導体制を確立し、全ての生徒の第一希望進路の実現を目指す。 | 課外では、基礎基本の定着及び応用力の養成を行うために、出席率70%以上の出席率を目指すとともに、指導方法の充実を図る。 | B | A | A | ○一般就職内定１００%、公務員延べ１０名合格を達成した。進学についても、それぞれの進路に応じたロードマップを完成し、本校独自の進学指導を確立する。<br><br>○コロナ禍であるが、インターンシップや小論文研修会が実施できた。進路応援助成金も資格取得のモチベーションにつながった。次年度は進路だよりの中身の精選や活用を検討する。<br><br>○進路の手引きの内容を見直し、年度当初の発行を目指す。進路ガイダンスは予定どおり実施できたが、内容及び早期実施を検討する。 | A | ・多様な進路にきめ細かく対応していると思う。<br>・商業枠を使って、もっと国公立大学の実績をあげて欲しい。<br>・18歳で成人となることや卒業後就職する生徒たちもいる中で、よりよい社会人になるためにSNSの使い方の問題など法律的な知識も含めて自覚を持たせる指導をしてほしい。<br>・中学校としては、高校卒業後の進路には非常に関心がある。進路決定状況の良さをもっと発信してもらうと、中学校の教員、生徒、保護者の関心が高まると思う。 |
| | | 様々な選抜方式に対応する小論文指導を、年次及び教科と連携して組織的に行う。 | A | | | | | |
| | | 公務員専門学校等と連携し、講義や面接指導及び情報共有の回数を増やし、希望者全員（8名）の公務員試験合格を目指す。 | A | | | | | |
| | 3年間のキャリア教育を通して進路意識を高め、年次・教科と連携し、進路実現に必要な確かな学力を身につけさせる。 | 進路に関する体験的活動を通して、継続的・計画的にキャリア教育を推進する。 | B | A | | | | |
| | | 複雑化する入試形態に対応するために、進路だよりを年間4回発行を行う。 | A | | | | | |
| | | 進路応援助成金を活用し、多くの資格を取得し進路実現に役立てるよう支援する。 | A | | | | | |
| | 多様な進路に応じた進路ガイダンスを計画的に行い、生徒のキャリア意識を高める。 | 年度当初に進路の手引きを配布し、充実したガイダンスを行う。 | B | B | | | | |
| | | 3年次の就職希望者の面談及び面接練習を4月から7回以上行い、第一希望合格を目指す。 | A | | | | | |
| | | 1、2年次は年2回の進路ガイダンス、年2回の進路講演会を行う。3年次には6月までに進路ガイダンス及び進路講演会を最低1回行う。 | B | | | | | |
| 総合学科推進課 | キャリア教育を推進し、全教育活動を通して、社会的・職業的自立に向けた能力と態度の育成を図る。 | 3年間を通した系統的なキャリア教育の共通理解を図り、年次の産社・総探担当者に探究活動などの情報提供を行う。 | A | A | A | ○本校のキャリア教育について、その趣旨や流れについて改めて共通理解を深める機会を設定する。本校教育の根幹であるので、しっかりと目線あわせをやっていきたい。<br><br>○1年次はライフプラン、2・3年次は課題研究に取り組み、課題解決やプレゼンテーション力を高めた。原稿なしスピーチをはじめ各取組が希望進路実現につながるよう継続して指導していく。<br><br>○中学生の志望動向を踏まえて、生徒募集活動の見直しを行う。進路相談事業、進路相談会、体験入学の連動、中学校訪問、塾訪問の継続実施、広報コンテンツの検討を早急に実施する。 | A | ・キャリア教育の充実については，成果が出ている。「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」を生徒は誇りとし、目指してもらいたい。<br>・総合学科発表会は内容がとても素晴らしい。<br>・キャリア教育の成果として「ぎゃんうまか～!!アイス」など学校の特色がよく発信されている。<br>・卒業生の声で毎年満足度が高いのは素晴らしい。不満の1割の解消に向けてさらに対策を講じてもらいたい。 |
| | | 全教育活動の中で、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質の育成を意図した指導、助言及び評価を行う。 | A | | | | | |
| | | キャリア教育における研修会を年2回以上実施し、職員の意識と技量を高める。 | B | | | | | |
| | 「産業社会と人間・総合的な探究の時間」の指導内容を充実させ、3年間を通して系統的指導を計画し実施し、総合学科発表会の成功につなげる。 | 1年次の産社では、体験的な活動や協働的学び合いを重視し、科目選択や進路実現に結びつくよう3年間の抱負やライフプランを作り、全生徒が原稿なしによる発表を行う。 | A | A | | | | |
| | | 2年次の総探では、個々の進路目標や興味・関心に応じた課題設定を基に課題研究を行い、全生徒がプレゼンテーションを行い、研究の成果を発表する。 | A | | | | | |
| | | 各種研修会への積極的な参加を推進し、参加した研修会の報告を行うことでその還元を推進する。 | A | | | | | |
| | 総合学科高校の特長、情報の発信及び小・中学校、地域社会との連携強化を図る。 | 中学生やその保護者に本校の特色を説明する機会を設けてもらうよう依頼し、中学校訪問を3回以上、塾対象説明会を1回行う。 | B | B | | | | |
| | | 生徒募集活動を積極的に行い、夏休み進路相談会では30名、中学生体験入学では300名の中学生の参加を目指す。 | B | | | | | |
| | | ホームページやマスコットキャラクタをさらに活用し、行事後には必ずホームページを更新する。 | A | | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価（3月） | | | 次年度の主な課題 | 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報管理課 | 校内のICT環境を整備するとともに新たなICT機器及び通信技術の積極的活用を推進する。 | ICT機器を授業・行事で積極的に活用できるようHR教室以外でのICT環境を整備・充実を図り支援を行う。 | A | A | A | ○ICT機器の活用は、研修を充実させ、教職員の活用能力も向上した。一人一台端末の配布を受けてさらに環境整備に努める。<br>○学校SNSアカウントの整備を進める。情報セキュリティについては、今後も随時啓発を行う。・校務支援システム支援員との連携を深め、効果的な運用やシステムの改善等を進めていく。<br>○ICTの活用によりデータ情報が大幅に増加した。新たなフォルダ構成を考え、整理を行う。 | A | ・ICTの活用、研修、管理については、小中学校との交流を考えて進めていく必要がある。<br>・最近SNSに不適切な動画をアップロードする問題など、個人の中での規範意識はあっても集団になると規範意識が薄くなってしまう。ネットにおけるモラルやいじめなどについて生徒たちの心の教育を一層進めてほしい。 |
| | | 校務用ネットワーク、生徒用ネットワークのシステム管理に努め校務が円滑に遂行できるよう努める。 | A | | | | | |
| | | 本校におけるICT機器の備品管理システムの構築を行う。 | B | | | | | |
| | 個人情報、生徒職員のアカウント等を適切に管理し情報セキュリティを強化する。 | 現行の各ツールにおける職員・生徒アカウントを整理し、各種アカウントを一元管理し明確化を図る。 | A | A | | | | |
| | | 個人情報の流失、ウイルス対策に備えセキュアブラウザへ移行を推進する。 | B | | | | | |
| | | 情報セキュリティや情報モラル・規範意識の醸成を図る。 | A | | | | | |
| | 教務支援システムから統合型校務支援システムへの円滑な移行を支援し、他分掌と連携を図り新たな機能の活用を推進する。 | これまでの教育支援システムから統合型支援システムへ円滑に移行できるよう技術支援を行い問題解決にあたる。 | B | B | | | | |
| | | 統合型校務支援システムの積極的な活用を推進するため、他分掌・巡回訪問支援員と連携し校務の効率化を図る。 | A | | | | | |
| | | データの適切な管理と定期的なバックアップ及び保管を行う。 | B | | | | | |
| 1年次 | 生徒一人ひとりの進路実現を見据え、確かな学力を身につけた生徒を育成する。 | 学びなおしに力を入れ、スタディーサポートのGTZでBゾーン生徒50名を目指す。 | A | B | A | ○2教科Bゾーンの生徒は60名であった。3教科でもBゾーン達成に向け、今後は教科と連携した指導を行う。タイムマネジメントを意識した学習習慣や生活習慣を確立させる。<br>○課題研究や進路実現を見すえ、さらにプレゼンテーション能力を高めると共に多くの生徒に機会を与えることを意識する。<br>○生徒の意欲に二極化が見られた。行事後の振り返りにより、生徒や教師の声をバランスよく発信ができた。次年度は生徒を巻き込んで行いたい。 | A | ・1年次の中学校の学習事項の学び直しはありがたいが、中学校として検討すべきことである。<br>・コロナ渦を経て、実行可能な方で事業ができたことは大変好ましく思う。 |
| | | 5月までに資格取得計画を立てさせ1年間を見通した計画的な学習を促す。 | A | | | | | |
| | | 生活習慣を記録し、把握することで学習可能時間を見える化し、家庭学習180分を目指す。 | B | | | | | |
| | キャリア教育を充実させ、豊かな心を持ち、主体的に行動できる生徒を育成する。 | 社会人講話、卒業生講話を学期に1度実施し、社会にでて必要な能力を知り、自己理解に努める。 | A | A | | | | |
| | | 「体験活動」に積極的に参加し、感想を共有することで他者の考えの理解に繋げる。 | A | | | | | |
| | | 学びなおしに力を入れ、スタディーサポートのGTZでBゾーン生徒50名を目指す。 | A | | | | | |
| | 「新世生」としての在り方を自覚し、チャレンジ精神あふれる笑顔で活気ある生徒を育成する。 | 20期生という節目の年次として、常に学校ビジョンを意識して行動させ、「新世生」としての基盤を作る。 | A | A | | | | |
| | | 「ようこそ先輩」など学年行事を通して、生徒の企画・運営力を高め、達成感を味わわせる。 | A | | | | | |
| | | 年次通信を年4回以上発行し、年次や学校の情報を発信する。 | A | | | | | |
| 2年次 | 学習規律と確かな学力の定着を図り、進路意識を向上させ進路実現へ繋ぐ。 | 授業前後の挨拶及び教室環境の整美をし、学習に対する集中力を育成する。 | A | B | A | ○選択科目が増え授業に意欲的に取り組んだ。家庭学習時間は平均186分で目標まで届かなかった。日々の課題や考査に向けての学習を計画的に行うように授業担当者と連携した指導を行う。<br>○コロナ渦でインターンシップ等の取組が十分にできなかった生徒もいるので、事後指導を含めた代替のプログラムも計画をしておく。<br>○20周年記念の年次の取組や修学旅行などでの成果を最上級生としての自覚につなげ、様々な場面でのリーダーシップを発揮させていく。 | A | ・進路意識の向上への取組がしっかり行えていると思う。<br>・「授業前後の挨拶」は昨年度と同じであるが、発達段階に応じて、上級学年をめざす目標づくりが大切である。 |
| | | 進路を見据えてクラス編成をし、各教科と連携を図り、学習時間240分を目指す。 | B | | | | | |
| | | 進路意識の向上に向けて個人面談の充実と1つ以上の資格取得を促す。 | B | | | | | |
| | キャリア教育を通して志を立て、主体的に行動できる生徒を育成する。 | 総合的な探究の時間は、課題研究を実施し、年次会で進捗状況と指導法について共通理解を図る。 | A | A | | | | |
| | | 就職希望者にインターンシップ、進学希望者にオープンキャンパスへの参加を促す。 | B | | | | | |
| | | 授業前後の挨拶及び教室環境の整美をし、学習に対する集中力を育成する。 | A | | | | | |
| | 中核年次の自覚を持ち、失敗を恐れず挑戦する生徒を育成する。 | 学校行事へ主体的に取り組み企画運営に挑戦するリーダーの育成に努める。 | A | A | | | | |
| | | ボランティア活動等の体験的な学習に積極的な参加を促し、地域社会へ貢献する意識の向上を図る。 | A | | | | | |
| | | 年次通信を年4回発行、HPを活用し、保護者への情報発信をする。 | A | | | | | |
| 3年次 | 学習規律と確かな学力を基盤に、第一希望の進路実現の達成。 | 学習規律と教室の整美を徹底し、学習効果を上げる。 | A | A | A | ○年次全体では目標家庭学習時間を達成したが、大学進学希望者は推薦重視が多く、目標に届かなかった。大学入学共通テストや一般入試受験者だけでなく、全生徒に勉強の大切さを強調した指導を最後まで行う。<br>○課題研究は分野別発表につなげられたが、今後は年次全体に還元できるように改善したい。<br>○進学・就職説明会はより高い効果が得られるようにそれぞれの開催時期の検討が必要である。<br>○多くの生徒が資格取得に向け積極的に取り組んだが、もう一歩上を目指させていきたい。 | A | ・卒業後の進路においても、知識や技能を修得していくことの大切さをしっかり指導することが大事だと思う。 |
| | | 課外を含む各自の学習時間を大学進学希望者300分、その他の生徒180分とする。 | B | | | | | |
| | | 2か月に一度の二者面談の実施と面接指導（5回以上）や志望理由者指導を計画的に行う。 | A | | | | | |
| | 豊かな人生を送るためのキャリア教育の充実・発展を図り、教養を深めさせる。 | 「講座別研究」では進捗状況を確認し、指導法について共通理解を図り年次全職員で当たる。 | A | B | | | | |
| | | 進路を見据えた資格取得を推進し、全生徒が一つ以上資格を取得できるようにする。 | B | | | | | |
| | | 進路実現を達成のため、外部講師による進路講演会の開催し意識の高揚を図る。 | B | | | | | |
| | 最上級生として統率力の習得と保護者・地域社会と連携を図る。 | 体育大会・修学旅行等の学校行事の成功を通して、学校に貢献できる生徒を育成する。 | A | A | | | | |
| | | 保護者向けの進学・就職説明会を企画し、進路実現に向けての心構えや進路情報を共有する。 | B | | | | | |
| | | 年次通信を年4回発行に加え、HPを活用し学校の情報を保護者や中学生等に発信する。 | A | | | | | |

## 自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・授業アンケートや相互授業評価等を実施し、積極的に授業改善に取り組む。
・コロナ渦で実施が難しかった校外でのボランティアや体験的学習を推進し、生徒が成長を実感できる取組を充実させる。
・多様な進路希望実現に向けて、より丁寧なガイダンスと効果的な支援を行う体制づくりに取り組む。
・一人一台端末の導入に際して、活用の制限だけでなく、環境整備の一環として、情報モラルや心の教育の更なる充実を図る。
・生徒募集に係る広報活動について、学校HPの活用に偏らず、必要に応じて広報紙などの紙ベースのコンテンツを効果的に取り入れていく。

### 評価項目以外のものに関する意見

・生徒募集については、魅力のある学校づくりが基本である。行きたい学校、行かせたい学校、勧めたい学校であるために、生徒自身の自覚、教員による細やかな進路支援や生活支援、また、ボランティア活動などを通して、地域からさらに高い評価を得ることが重要である。
・ありあけ新世の生徒は校内だけでなく、校外でも素晴らしいので新世の良さをさらに発信してもらいたい。